

リファーレンいなばと学びあうESD環境教育

地域ESD拠点の津山圏域クリーンセンター・リサイクルプラザ（岡山県）の取組事例を参考に、リファーレンいなば（鳥取県）とお互いにESD取組について理解を深めつつ、行動変容につながるヒントを学びました。

リファーレンいなば紹介



事業主体：鳥取県東部広域行政管理組合
 管理運営：公益財団法人鳥取県東部環境管理公社
 概要：環境クリーンセンターの工場見学やリサイクル工作体験など地域の方々主体的に活用することを通して、ごみ問題に対する理解を深める住民参加型の施設。
 課題：○リサイクルの啓発が難しい。（「あき缶やあきビンをさっと洗う」啓発が難しい。）
 ○小学校の社会科見学では、事前のビデオ視聴が難しく、十分な見学時間が確保できない。



ゴミゴミ博士（松長さん）

2019年8月1日 「クリーンセンター見学&意見交換」

参加者

松長理事長、松田事務局長（公益財団法人鳥取県東部環境管理公社）、中平徹也氏（津山圏域クリーンセンター・リサイクルプラザ元所長、岡山環境カウンセラー協会 環境カウンセラー）、中国四国地方環境事務所2名、中国地方ESDセンター2名



見学者は、実際に工場の中に入り、匂いや音など、五感を通じてゴミを体験！



リサイクルファクトリーでは、有償ボランティアが、木工教室などを通してリサイクルを推進しています



中平さん

リサイクルの本来の目的（持続可能な地域づくり）を考えてもらうことがとても大切！伝え方の工夫として、現場担当職員が、作業内容や困っていること等を直接説明したり、見学時間の確保のため、事前に啓発DVDを学校で見せて来てもらったりするのはどうでしょう？

2019年9月27日 「小学校4年生見学オブザーブ&意見交換」

参加者

稲村場長・山根氏（鳥取県東部広域行政管理組合）
松田事務局長（公益財団法人鳥取県東部環境管理公社）
中平徹也氏、中国地方ESDセンター2名



ちょっと考えてみて。なんでこんなに臭うんだろう？
ゴミって臭いものなのかな？



今日見たことを、家族や友達と話してみたい。
より多くの資源をリサイクルするために、今日からできることを考えてみて！



短い見学時間を有効に使うため、感情や五感に訴え、印象に残るような伝え方をしている。また、子どもに対して、膝を落とし、目を合わせて話すよう心がけている。



稲村さん

素晴らしい！リサイクルの目的を、子どもたちに言われた感想から逆算してみると視点が変わっていかも。担当者だけでなく、関わる人材の育成も大事。

2020年2月14日 「ESD勉強会inリファーレンいなば」

参加者

構成する自治体担当者・リファーレンいなば事務局・環境クリーンセンター職員・啓発担当スタッフ 計26名
中平徹也氏（講師）、中国地方ESDセンター2名（運営）



ESD、SDGs、Cool Choice、エシカル消費、食品ロス、もったいない…
言葉は何でもいいんです！



自分の体験を生かして一歩踏み込んで話をする必要がある。楽しく学ぶを基本に、「自分ごとに考えてもらう」手法を取り入れていきたい！



令和の新時代は、価値創造型教育である「①正解がない⇒間違ってもよい、失敗は成功への近道」「②みんなで取り組む⇒立場・分野・世代をこえて力を合わせる」「③楽しみながら行動する⇒まずはやってみる、走りながら考える」という姿勢で実践することが大切。みなさんは環境学習の中で何を伝えたいですか？

お問い合わせ



中国地方
ESD活動支援センター

TEL:082-555-2278 Eメール:cgesdc@chugoku-esdcenter.jp
住所:730-0011 広島市中区基町11-10 合人社広島紙屋町ビル5階